

宇都宮市の地域特性と現状

1. 社会的特性

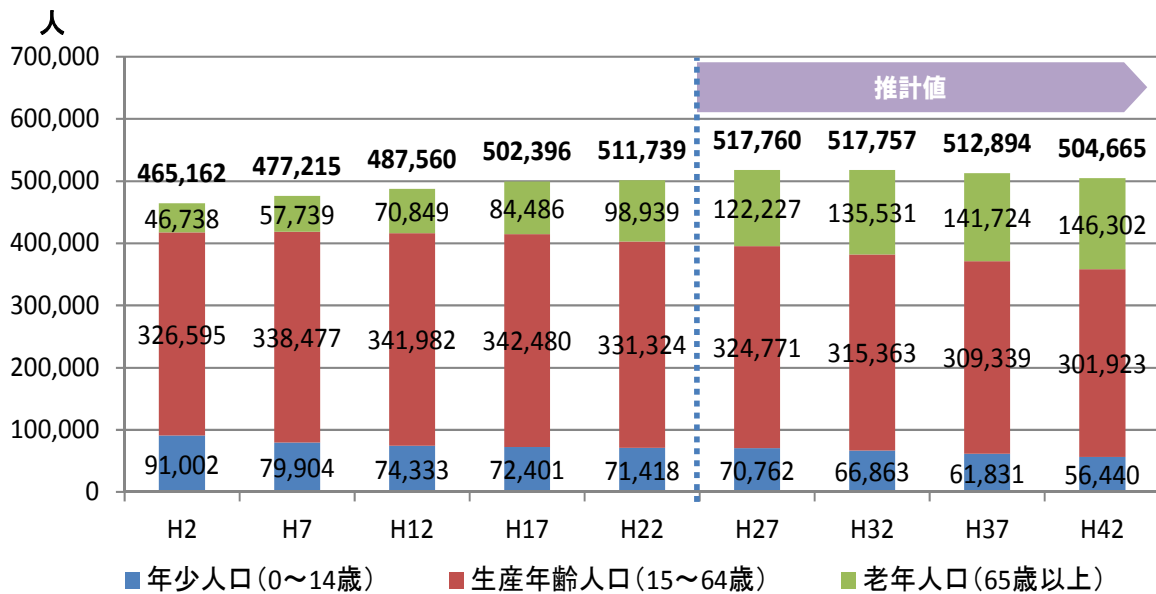
1.1 人口、世帯数

国勢調査による平成22年の本市の人口は、511,739人、世帯数は210,482世帯となっている。人口、世帯数ともに近年は増加傾向にあり、特に世帯数については、核家族世帯及び単独世帯の増加により大きく増加している。

人口の将来予測では、平成29年度にピークを迎え、その後人口減少に転じると想定されている。さらに、将来の人口減少の一方で、老年人口は増加傾向になることが想定されている。

人口減少を見据えた環境負荷低減策の検討が重要となる。世帯数が増加することでエネルギー利用の合理性が低くなるため、家庭部門における環境負荷の増大が想定される。

また、高齢者が同居することでエネルギー使用量が増加する傾向にあるが、これは、高齢者が日中も家庭内で電気等のエネルギーを使用していることが想定されるものであり、高齢者世帯・高齢者同居世帯への省エネルギー等の環境負荷低減策の推進が必要となる。



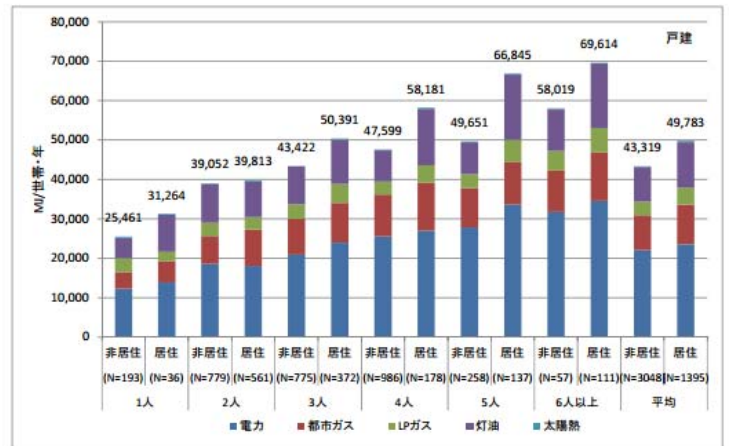
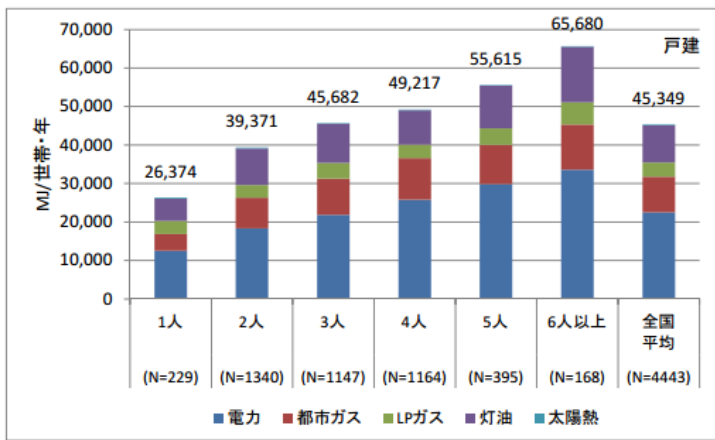
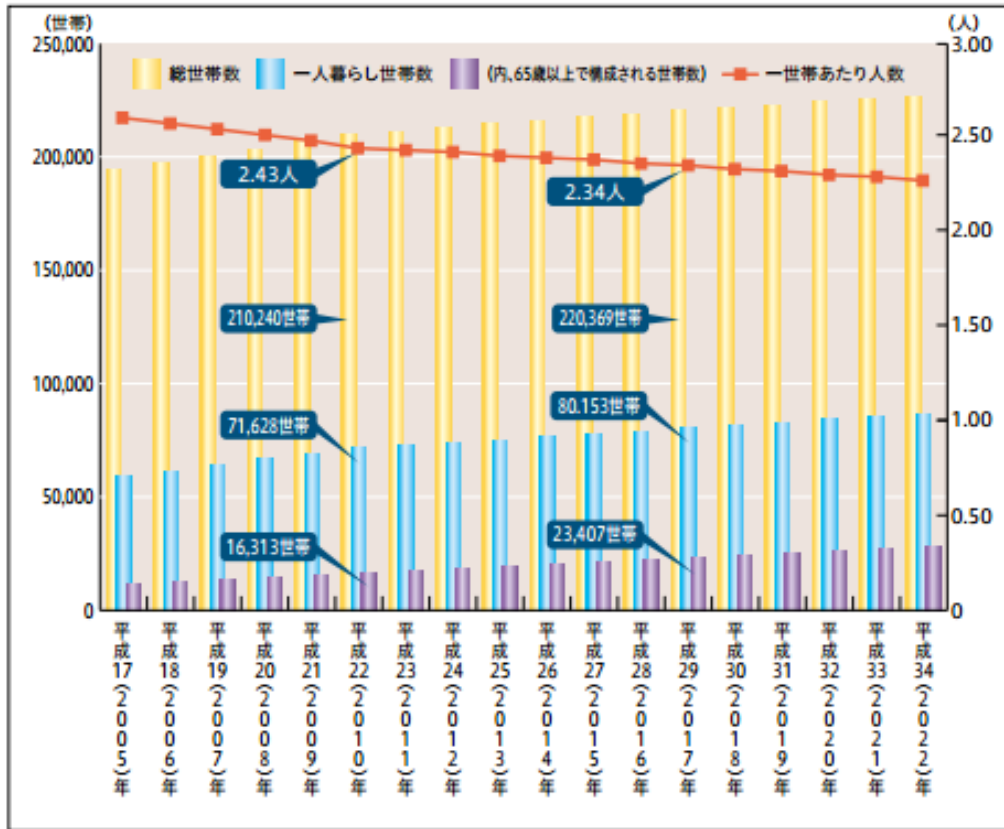
出典：平成2～22年：「国勢調査」(総務省)

平成27～42年：「宇都宮市の将来推計人口(平成26年7月推計)について」(総合政策部 政策審議室)

※ 年齢不詳人口は表示していないため、年齢3区分の合計値は総人口と一致しない。

宇都宮市の年齢3区分別人口の推移と将来の見込み

世帯数・一世帯当たり世帯人員の推移



出典：平成23年度エネルギー消費状況調査（経産省）

世帯人数別の年間エネルギー消費構造

高齢者居住の有無別・世帯人数別の年間エネルギー消費構造

1.2 位置・広域

関東平野のほぼ北端、栃木県のほぼ中央に位置している。本市の100キロメートル圏には、首都東京のほか、水戸、前橋、さいたま、千葉といった各県都があり、鉄道や高速道路などで繋がっている。また、東北地方とも同様に繋がっているなど、関東地方と東北地方との双方とのつながりを有している。

51万人という人口を抱え、北関東での有数の経済拠点となっていることや、人・もの・情報がさらに集積し交流する拠点としての位置付けが強く、広域的な中心性、中枢性を本市の強みとして、周辺地域と連携した取組についても検討していくことが必要である。

位置：栃木県のほぼ中央（東京から約100キロメートル）

面積：416.84平方キロメートル

東西：23.97キロメートル、南北：29.53キロメートル

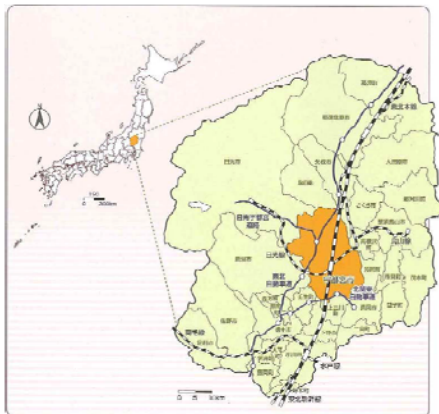
海拔：116.07メートル

地形：北部に古賀志山地、南部は主に低地

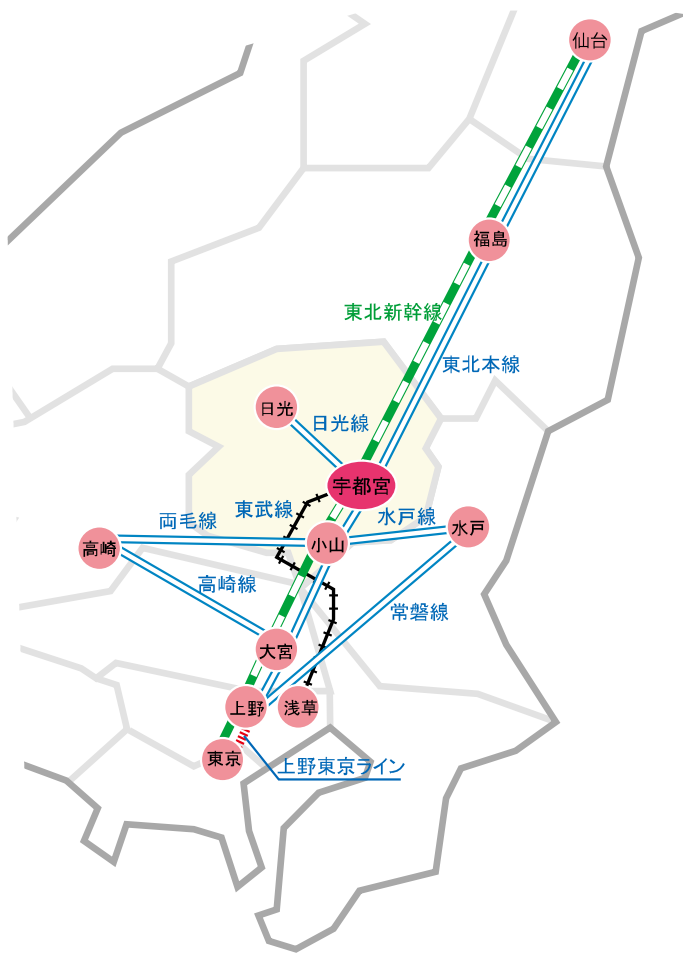
河川：鬼怒川、田川、姿川など（いずれも利根川水系）

鉄道：東北新幹線、JR宇都宮線、JR日光線、東武宇都宮線

道路：東北自動車道、北関東自動車道、国道4号、国道123号など



宇都宮市の位置



広域鉄道網



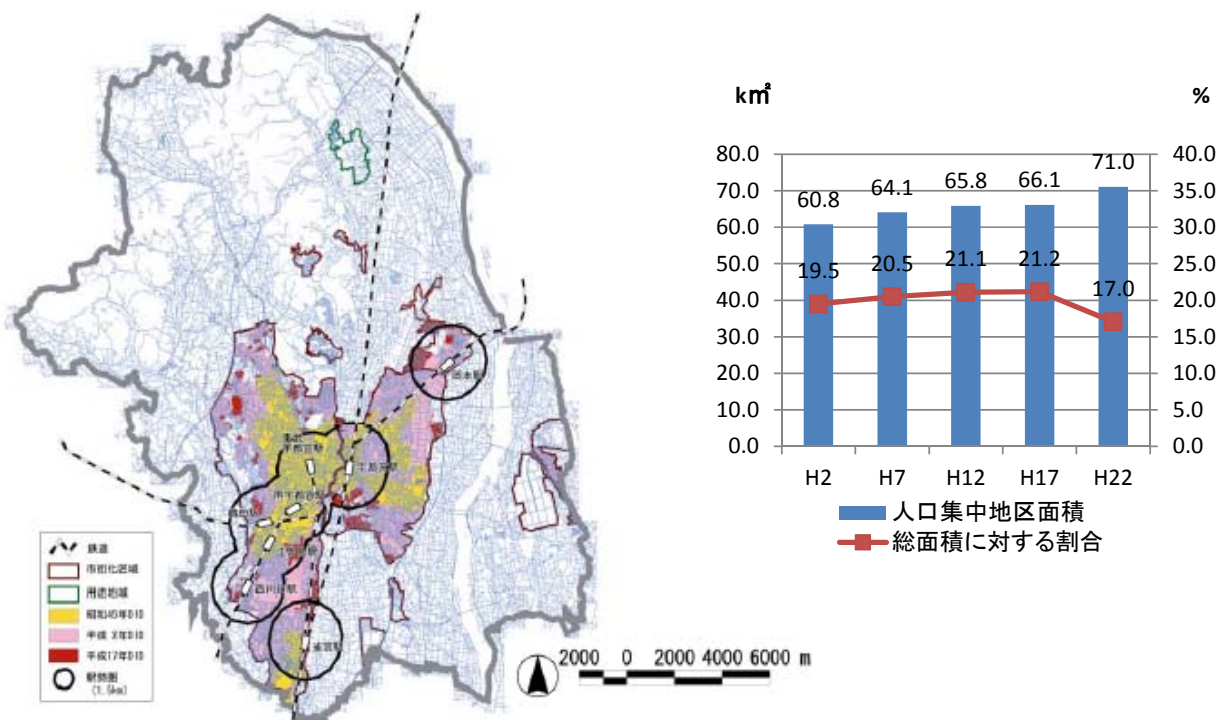
広域自動車網

1.3 土地利用

人口集中地区（以下「D I D」）の面積が、昭和45年から平成17年にかけて約2.6倍に拡大している。一方でD I D人口密度は、昭和45年から昭和55年の10年間で約3割減少し、その後は維持しているものの、市街地が薄く拡大する傾向にある。

平成29年度をピークに人口減少へ転じることから、今度さらなる人口密度の低密度化が加速化することが予想されるため、エネルギー利用の合理化の観点からも「分散」から「集中」への促進策検討が必要と考えられる。

また、市街地の無秩序な拡大を抑制するための、コンパクトシティ化などによる都市と自然との調和や、農村の定住維持を通じた自然保全、交通環境負荷の削減などの検討が必要になる。



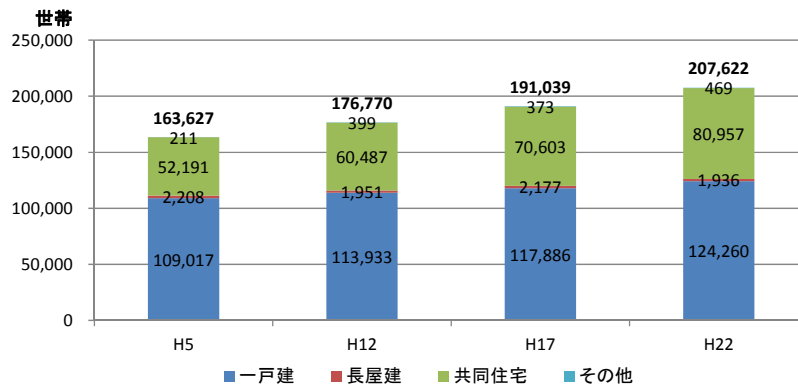
宇都宮市のDIDの分布と面積の推移

1.4 住宅

本市における住宅の建て方別の世帯数を見ると、約6割が戸建住宅、約4割が共同住宅となっている。一方、近年、空き家が増加しており、平成20年度では約3万軒を数え、住宅全体の約14%に及んでいる。

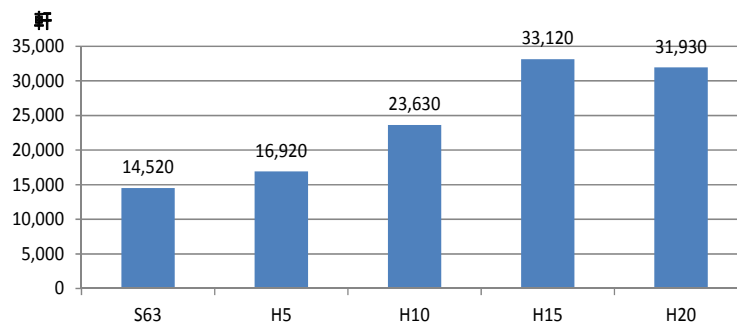
共同住宅の割合が年々増加しており、戸建住宅との割合が近接していること踏まえ、家庭部門における環境負荷低減策については、戸建住宅を対象とした対策と併せて共同住宅において実施することのできる対策を検討していく必要がある。

老朽化した空き家は、安全性、公衆衛生の観点から周辺環境に与える影響が大きいため、都市の快適な環境、安全な環境を創出するためにも空き家対策と連携した環境負荷軽減策の検討が必要となる。



出典：「国勢調査」（総務省）

住宅の建て方別一般世帯数の推移



出典：「住宅・土地統計調査結果」（宇都宮市）

宇都宮市の空き家数の推移

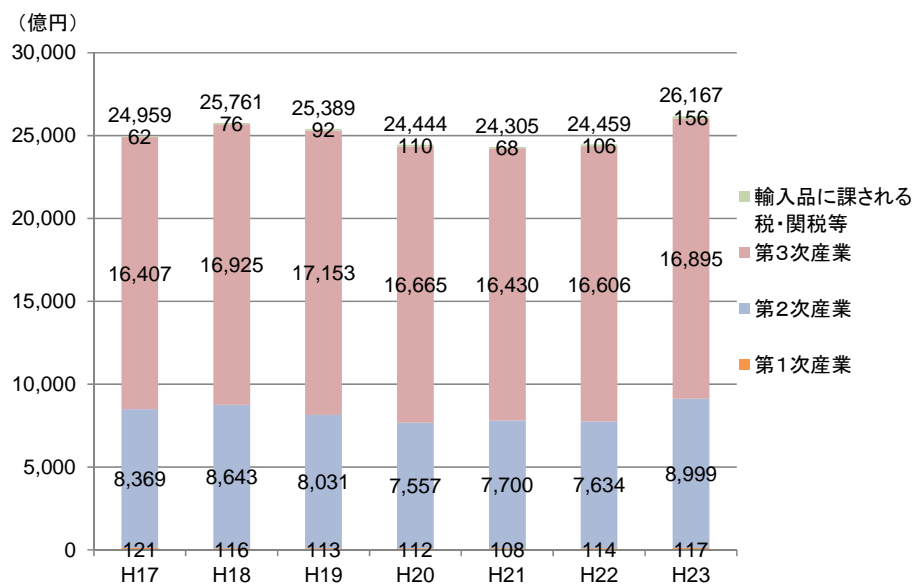
1.5 産業

平成23年度における市内総生産は、2兆6,167億円で、県全体の約33%にあたる経済規模を誇る。市内総生産のうち第3次産業が65%、第2次産業が34%を占めている。

近年は、総生産は回復傾向にあるが、事業所数は減少傾向となっている。

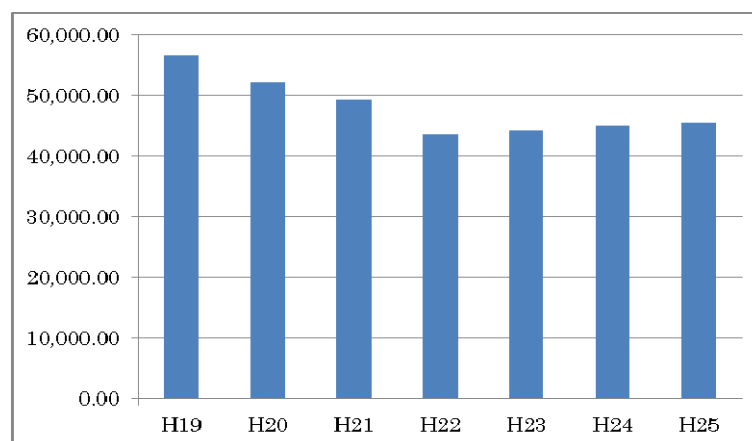
総生産の推移と比例して、事業系ごみ排出量も増加傾向にあることから、事業者がリデュース・リユースの取組を推進しやすい社会システムの検討など、事業系ごみ排出量の増加の要因分析と対策の検討が必要である。

また、エネルギー使用量についても、総生産と比例し増加することが予想されることから、更なる省エネルギー等の対策が必要となる。



出典：「平成23年度市町村民経済計算」（栃木県）

宇都宮市の市内総生産の推移(第1次～第3次産業別)

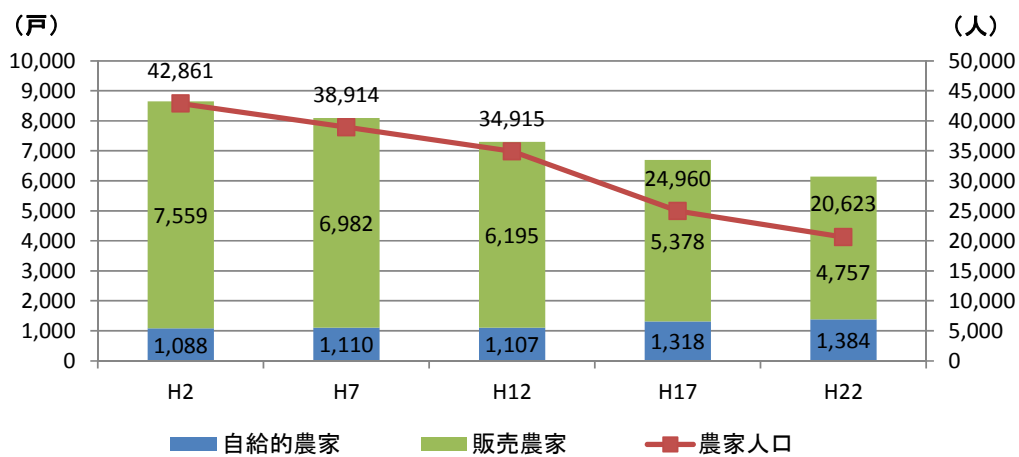


宇都宮市の事業系ごみ排出量の推移

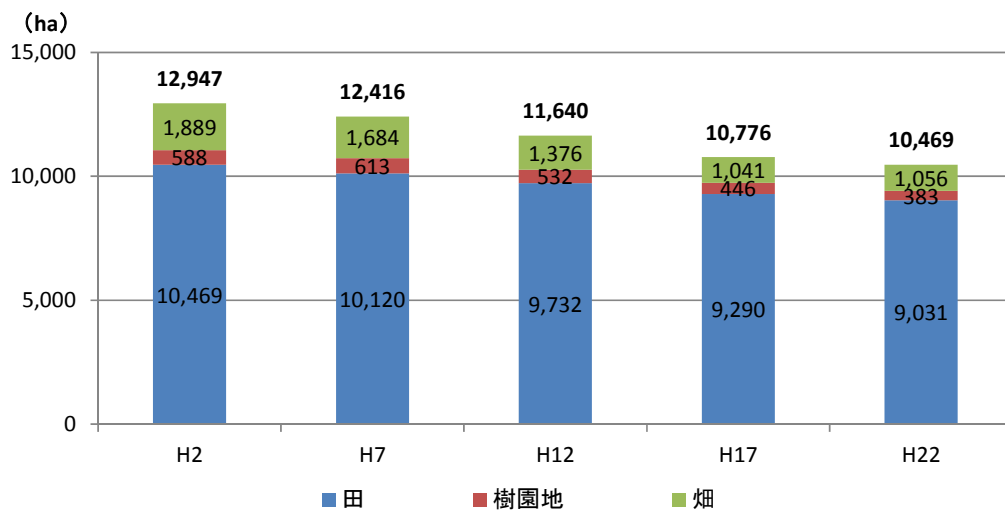
1.6 農業

平成22年（2010年）の農業戸数は6,141戸、農家人口は20,623人、経営耕地面積は10,469ヘクタールとなっている。近年、農業戸数、農家人口、経営耕地面積いずれも減少傾向にある。

過去20年間で農家人口が半減していることから、これに伴い経営農作地面積が本市においても減少していることが見込まれる。また、管理されなくなった農地（耕作放棄地）が増加することにより「農地の多面的な機能（雨水の一時的な貯留）」などが失われる可能性があり、環境にあたる影響について検証していく必要がある。



農家戸数・農家人口の推移



出典：「世界農業センサス」（農林水産省）、「農業センサス結果」（農林水産省）

全国の経営耕作地面積の推移

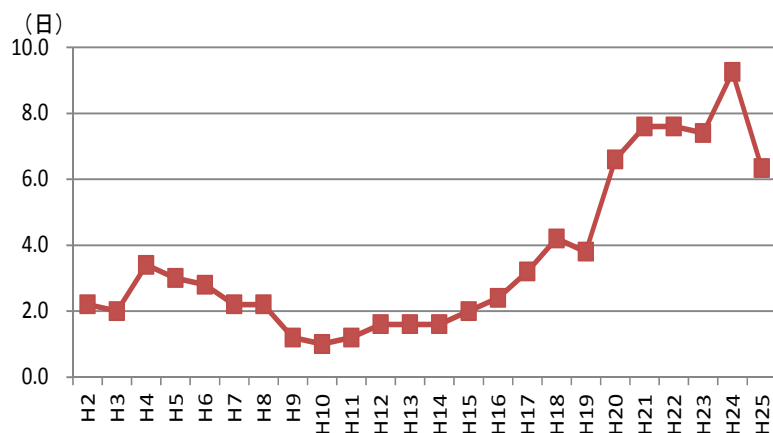
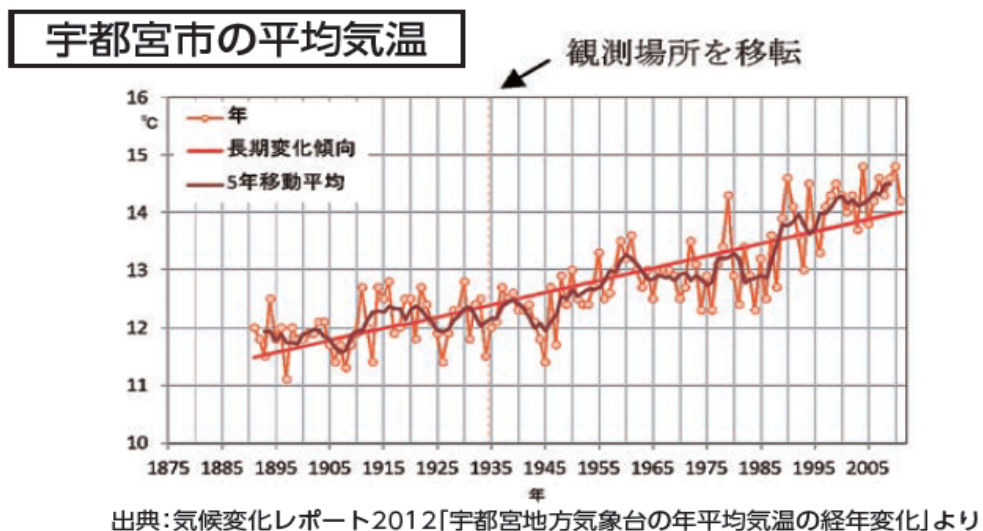
2. 自然的特性

2.1 気候・気象

宇都宮気象台における年平均気温の平年値は13.8℃で、東京気象台の同16.3℃よりは低く、福島気象台の同13.0℃よりも高くなっており、東北の寒冷地と関東以南の温暖地の境界にある。平均気温は、増加傾向で推移しており過去100年間で2℃以上上昇している。また、それに伴い熱帯夜数（夜間の最低気温が25℃以上の日数）についても近年増加傾向にある。

地球温暖化による平均気温の上昇は顕著であり、ゲリラ豪雨などの異常気象や農作物への影響、熱中症やデング熱といった人体への影響も含めた温暖化によるリスクへの対応の検討が急務である。

また、近年の気候の変動にも対応できるよう、雨水の利用の推進し水資源の有効な利用を図るとともに、下水道、河川等への雨水の集中的な流出の抑制についても検討が必要である。



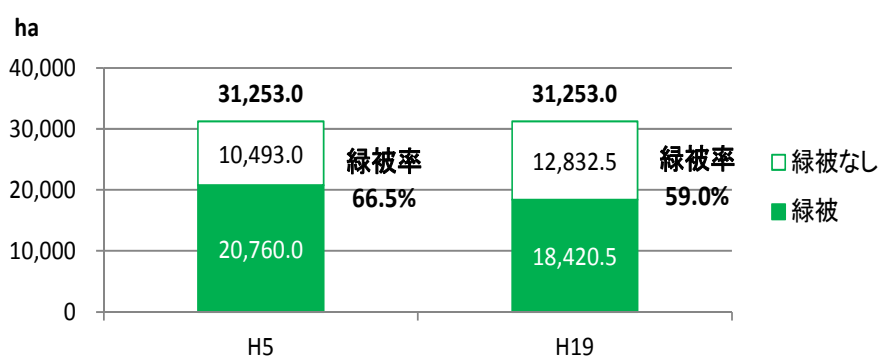
出典：気象庁ウェブサイト
宇都宮市の熱帯夜日数（5年間の移動平均）の推移

2.2 緑被

市域の緑被面積は、2,663平方キロメートルで、緑被率は63.2%である。また、市街化区域では16.7%,市街化調整区域では75.3%,非線引き区域では81.2%となっており、特に、市街地の緑の分布が少ない状況が見られる。

また、旧宇都宮市域の緑被率の推移をみると、平成5年から平成19年度にかけて7.5ポイントの減少となっている。

アンケート調査において、自然災害への対応や都市の緑化・緑地の保全に関するニーズが高いことなど鑑み、戸祭山緑地や鶴田沼緑地といった都心部の緑地の保全とあわせ、ヒートアイランド対策や農地面積の減少対策、生物多様性の保全などの面からも緑地の保全・創出が必要となっている。



緑被率の推移(旧宇都宮市域のみの推移)

2.3 動植物の生育・生息状況

本市は、北部の山地・丘陵地を覆う樹林地と、鬼怒川をはじめとした河川の水面及び沿岸の植生が、比較的大きな連続した空間を形成し、複数の重要種を含む、数千種にもおよぶ生物生息の重要な拠点となっている。

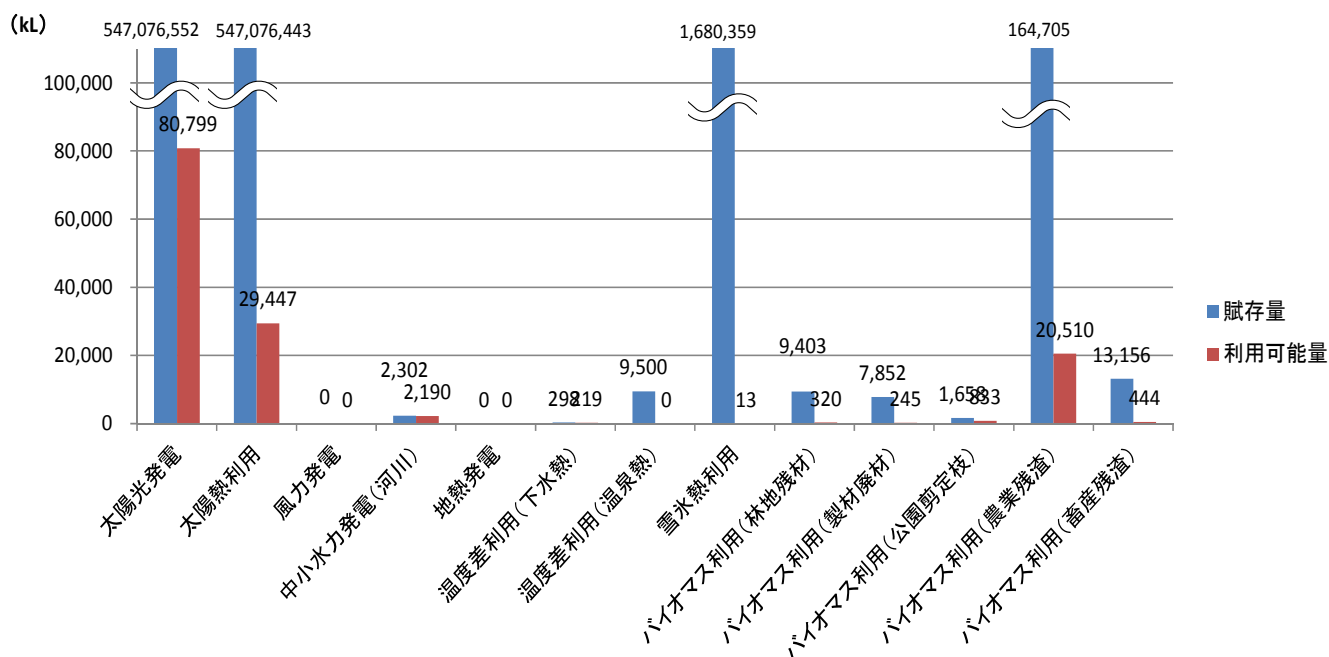
多様な動植物の生息・生育環境を今後も維持していくため、その生息・生育拠点を確保するだけでなく、山地や河川を軸として面的な空間形成も意識する必要があることから、都市開発や農業などとも連携した対応策を検討する必要がある。

2.4 再生可能エネルギーの賦存量・利用可能量

市内の再生可能エネルギー賦存量の総量の99%以上が太陽エネルギーで占められている。

山村部におけるバイオマス利用や大谷廃坑の地中熱利用など、地区ごとに異なる特性に応じた再生可能エネルギーの活用方法の発掘や本市のポテンシャルを最大限生かした再生可能エネルギーの導入促進策の展開が必要となる。

太陽光発電については、固定価格買取制度後の一斉導入の影響により、一定の時期に集中した廃棄が予測されることから、リサイクル手法も含めた対応策の検討が必要となっている。



出典：「緑の分権改革の推進に係るクリーンエネルギー資源の賦存量等の調査についての統一したガイドライン作成のための調査研究報告書」(総務省)
宇都宮市の再生可能エネルギーの賦存量・利用可能量

3. 環境負荷の状況

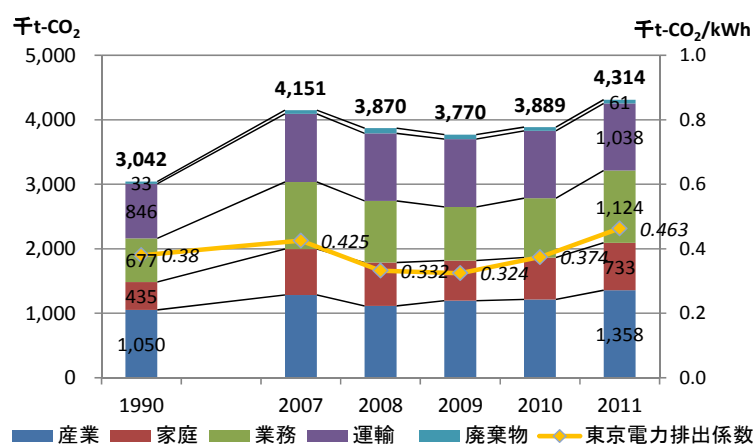
3.1 温室効果ガス排出量

宇都宮市の平成23（2011）年度の二酸化炭素排出量は431万 t-CO₂で、平成2（1990）年度比で41.8%の増加となっている。特に家庭部門では68.5%の増加、業務部門では66.0%の増加している。

平成23（2011）年度の部門別内訳は産業部門、業務部門、運輸部門の順に多くなっており、近年は家庭部門の排出量増加傾向も顕著である。

二酸化炭素排出量は増加傾向にあり、その原因について早急な分析が必要となる。

また、市民や事業者などの各主体における取組のみならず、分野横断的な連携のもと対策を講ずる必要がある。



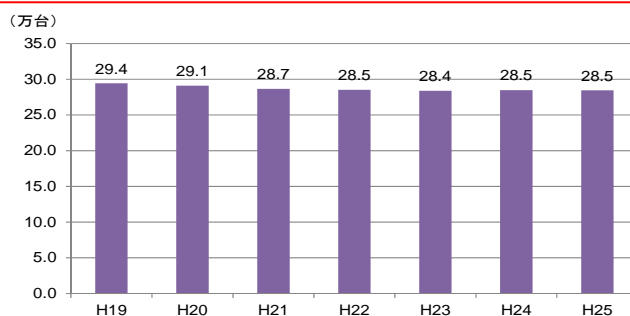
出典：「地球温暖化対策地方公共団体実行計画（区域施策編）策定支援サイト」（環境省）を基に作成

宇都宮市のCO₂排出量の推移

3.2 交通

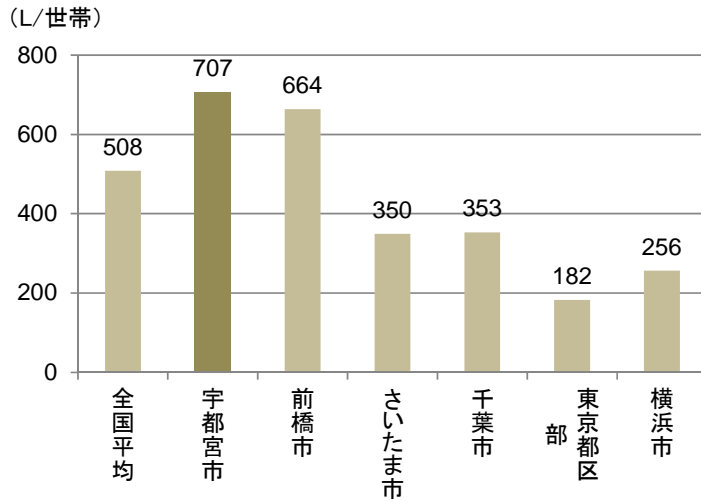
市内の自動車保有台数は約29万台で、近年大きな増減はないが、世帯あたりの年間ガソリン消費量は707L/世帯であり、他の都市と比べて消費量が大きくなっている。

依然として自動車に対する依存度が高い状況である。また、自動車由来の環境負荷も他市に比べて高い状況であり、都市構造のようなハード面の対策から、公共交通機関の利用促進や次世代自動車の普及促進といったソフト面も含めた、大局的な視点からの分野を横断した総合的アプローチが必要な状況である。

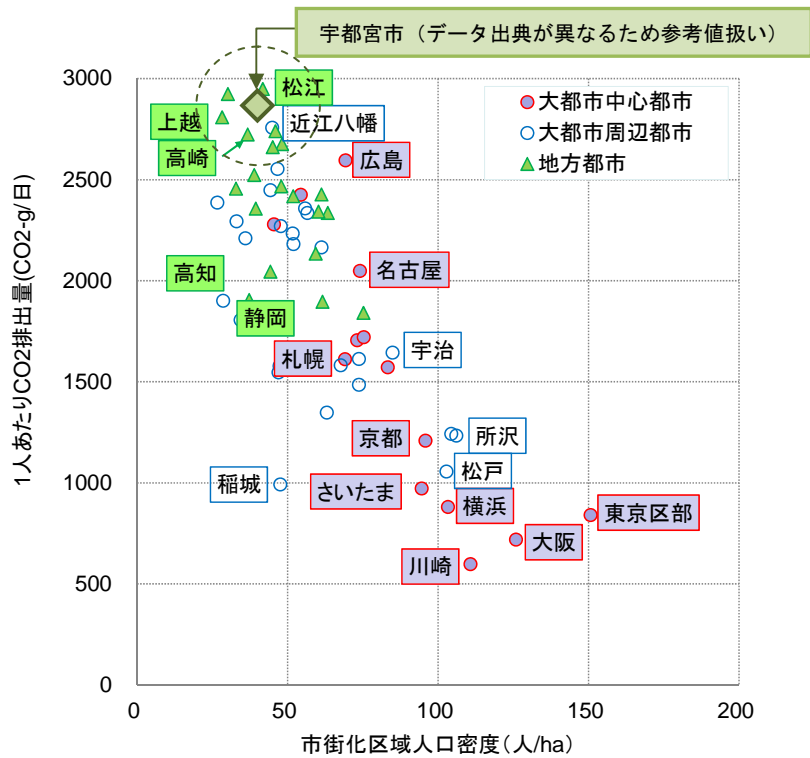


出典：「業務要覧」（関東運輸局栃木陸運支局）

自動車保有台数の推移



出典：「総務省統計局家計調査 2013年（平成25年）2人以上の世帯」
 関東の県庁所在地における世帯あたりの年間ガソリン消費量の比較（平成25年度）



出典：宇都宮市の1人あたりCO₂排出量：「全国市区町村自動車CO₂表示システム」(環境省)(平成17年度)
 宇都宮市の市街化区域人口密度：「宇都宮市統計データバンク」(平成22年度)
 他都市：「国土交通省資料」(平成22年度)

都市別の市街化区域人口密度と1人あたり自動車由来CO₂排出量の関係

3.3 自転車のまち宇都宮の推進

平成15年に「自転車利用・活用基本計画」を策定し、自転車走行空間の確保や駐輪場整備などに積極的に取り組むなど、市民の誰もが「自転車を“安全”に使える」「“快適”に自転車が使える」「“楽しく”自転車が使える」「“健康とエコ”に自転車が使える」ようなまちづくりを目標に掲げ、様々な施策事業を展開している。

また、近年のサイクリスポートの人気も後押しし、アジア最高位の自転車ワンデーロードレースである「ジャパンカップサイクルロードレース」が毎年開催される、自転車のまちとしてのイメージが定着しつつある。



自転車を利用しやすい道路環境の整備と併せて、環境負荷が少ない点や健康増進にもつながる点などを掛け合わせた普及啓発策を充実するとともに、観光資源として更なる価値を創出するなどして、自転車を積極的に活用した自動車依存社会から転換策、環境負荷低減策の検討が必要がある。

4 まとめ

(1) 地域概況

- ・ 高齢者が同居する世帯と同居しない世帯では、同居する世帯の方がエネルギー使用量が多い傾向にあるため、高齢化による家庭部門における環境負荷の増大が想定される。
- ・ D I Dの人口密度が今後さらに希薄化することが予想されるため対応策の検討が必要である。
- ・ 空き家の増加に伴い、景観や安全等への影響が予想されるため空き家対策と連携した取組が求められる。
- ・ 事業系ごみ排出量の増加傾向にあり、事業者と連携した排出抑制、分別に取り組む必要がある。
- ・ 耕作放棄地の適正管理による農地の機能保持が環境保全の観点から重要である。

(2) 自然特性

- ・ 温暖化の影響による気温上昇により生じる災害等への適応が必要となる。
- ・ 都市の緑化・緑地の保全に関する高いニーズへの対応し、緑化の保全・創出策を推進していく必要がある。
- ・ 多様な動植物の生息・生育環境を維持するために分野が連携した取組が必要となる。
- ・ 地域の実情に合わせた、再生可能エネルギーの導入促進策が重要である。

(3) 環境負荷

- ・ 二酸化炭素排出量は増加傾向にあり市民・事業者と連携し、温室効果ガス排出量の削減に取り組む必要がある。
- ・ 自動車依存による自動車由来の環境負荷増大に対応すべく、分野横断的に対応する必要がある。
- ・ 自転車によるまちづくりなど、本市の観光資源と連携するなどして、双方の相乗効果を高めた環境施策の検討が必要となる。

宇都宮市の地域別特性

	北西部地域	中央地域	東部地域	南部地域	北東部地域
人口 (H26.6 現在)	44,159 人	202,625 人	67,136 人	160,042 人	45,385 人
面積	107,159 km ²	57.90 km ²	82.72 km ²	64.27 km ²	104.68 km ²
地区の範囲・水域・主要道・鉄道					
土地利用					
都市マスタープランにおける構想	<p>「豊かな自然環境に恵まれたふれあい・交流空間づくり」</p> <p>観光や交流の充実、都市と農村の交流を中心とした地域の活性化や豊かな自然などの地域資源の整備・保全を図ります。</p> <p>宇都宮森林公園 二宮嶽と榎井富屋連峰</p>	<p>「風格・魅力と高質な都市機能を備えた賑わいある都市づくり」</p> <p>商業・業務・文化などの都市機能の集積を図るとともに、快適な居住環境の整備を推進、にぎわいと多様性のある都心の形成を図ります。</p> <p>二荒山神社 宇都宮馬場通り西地区(第一種市街地再開発事業)</p>	<p>「自然・水・産業が共存した活力と魅力あふれる都市環境づくり」</p> <p>自然と産業・学び・住む・遊びの機能が融合した新たな都市の形成を図ります。</p> <p>とちぎ乗馬競技プラザ(チクノボリ&センター) 飛山城跡と鬼怒川</p>	<p>「ひと・ものが交流し、多様な地域環境を形成する市街地づくり」</p> <p>都市機能の充実を図るとともに、農業の振興に努め、人やものの活発な交流と活力ある都市活動など多様なライフスタイルを支える市街地の形成を図ります。</p> <p>雀宮駅 上穴除橋から見た田園と姿川</p>	<p>「身近な田園と共生するうるおいの空間とゆとりある生活環境づくり」</p> <p>恵まれた田園環境や歴史文化資源などを活かした地域の活性化を図るとともに、ゆとり・うるおいを感じる良質な生活空間の形成を図ります。</p> <p>羽黒山からの眺望 白沢宿のまちなみ</p>

	北西部地域	中央地域	東部地域	南部地域	北東部地域
交通	<ul style="list-style-type: none"> 東北自動車道が地域の東縁を縦貫し、宇都宮 IC から日光宇都宮道路が接続している。 	<ul style="list-style-type: none"> JR 宇都宮線・東北新幹線・日光線の宇都宮駅、および東武宇都宮駅といった鉄道交通のハブとなる中央駅がある。 地域内を宇都宮環状線が取り囲み、国道 119 号（東京街道、日光街道）、国道 4 号、国道 123 号（水戸街道）、白沢街道、大谷街道および鹿沼街道などの主要道路網が放射状に延びている。 	<ul style="list-style-type: none"> 南北方向に新 4 号国道、国道 408 号、東西方向に国道 123 号および 121 号が走り、そこから連続した主要道路が、瑞穂野工業団地、清原工業団地および宇都宮テクノポリスセンターを結んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 南北方向に国道 4 号、新 4 号国道、栃木街道の主要街道、東西方向には北関東自動車道、宇都宮環状線がある。 南北方向に JR 宇都宮線、東武宇都宮線、東西方向に JR 日光線がある。 	<ul style="list-style-type: none"> JR 東北新幹線と東北自動車道が地域を縦貫し、上河内サービスエリアにはスマート IC が設置されている。 JR 宇都宮線の岡本駅が位置している。
景観の方針	優れた自然景観や観光資源を保全・活用し、身近な自然と親しめる景観を目指す	自然と文化の調和を図りながら、中核都市にふさわしい魅力ある景観を目指す	鬼怒川を中心に広がる田園景観を保全し、産・学・住が調和した景観を目指す	のどかさを感じさせる田園景観を保全し、立地の良さを活かした快適で活力のある景観を目指す	<p>【上河内地域】</p> <p>豊かな自然景観や田園景観を保全・活用し、自然とふれあい、緑あふれる景観を目指す</p> <p>【河内地域】</p> <p>自然景観や文化資源を保全・活用し、ひと・まち・自然が調和した景観を目指す。</p>
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> 地域内を田川、および新里町の鞍掛山を水源とする姿川が貫流し、市最高峰の古賀志山や、篠井富屋連峰の山々が連なる低山地帯であり、市の緑の骨格をなしている。 古賀志山周辺は、市の森林公園に設定されており、宿泊・自然体験を通じた種々のレクリエーション活動ができる。 野沢町の弁天沼に端を発する釜川は、中心市街地を潤す貴重な水辺へと繋がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日光街道の沿道に植えられた、日光市から繋がる緑の帯である杉・桜並木や、市北西部の緑の骨格から連続する長岡公園、戸祭山緑地、八幡山公園などが都市における貴重な自然を形成している。 長岡公園は、百穴と呼ばれるその独特な地形構造と併せて、栃木県によって「長岡緑地環境保全地域」として指定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域内を自然環境の基幹となる鬼怒川が縦貫し、水と緑の回廊を形成している。 連続した鬼怒川の河川敷の自然とは別に、みずほの自然の森公園などの点的な緑の拠点が整備されている。 鬼怒川を水源とする右岸の平石地区は良質米の産地である。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の東西端を縦貫する姿川と田川が自然環境の基幹であり、JR 線を挟んで西側は住宅地が密集しているが、東側には田川沿いに農耕地が大規模に広がっている。 鶴田沼は、市からの委託を受けてグリーントラストうつのみやが、その管理活用を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の北東縁を一級河川鬼怒川が流れ、地域内を西鬼怒川、山田川といった河川が潤す、水と緑の豊かな穀倉地帯である。 羽黒山一帯は、歴史的、文化的遺産と一体となって良好な緑地環境を形成している区域として、栃木県の緑地環境保全地域に指定されている。 下ヶ橋町・白沢町を中心とする西鬼怒川地区は、自然と調和する先進的な整備地域として農林水産省により全国に紹介されている。
生態系	<ul style="list-style-type: none"> 緑の骨格をなすと同時に、種々の生物の生息・生育場を提供している重要な地域である。 森林公園内に沢に生息するムカシトンボが市の天然記念物に指定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 平野部の湿地を生息場所とするトウキョウサンショウウオが戸祭山で、平地林を営巣地や狩場とするオオタカなどの、都市の中に残された貴重な自然環境を利用した県内でも希少な生物が生息・繁殖している。トウキョウサンショウウオは市の天然記念物に指定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 鬼怒川には初夏にはアユ、秋にはサケが太平洋から遡上し産卵を行うことで、山から海までつながる水のネットワークと生き物生息空間のスケールを実感できるとともに、栃木県特有の食文化を生み出した水産資源が維持されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 鶴田沼は、市指定天然記念物のハッチョウトンボ生息地となっている、周辺には湿地で樹林を形成するハンノキが群生している。 	<ul style="list-style-type: none"> 鬼怒川の氏家大橋付近の河川敷には、隣接するさくら市の天然記念物であるシルビアシジミの生息地があり、同時にこの周辺の河原は、氾濫原の砂礫河原に生育・生息するカワラノギクやカワラバタも確認でき、渡り鳥であるコアジサシの集団繁殖地ともなっている。この地域は、2013 年に栃木県により「鬼怒川中流域自然環境保全地域」として指定されている。

	北西部地域	中央地域	東部地域	南部地域	北東部地域
地域のポテンシャル	<ul style="list-style-type: none"> 平成記念子どものもり公園, 農林公園ろまんちっく村, 市森林公園などの大人数が参集して, 自然体験やイベントを開催できる立地に恵まれている。 東北自動車道の宇都宮 IC があるほか, 宇都宮環状線を利用した遠距離移動を伴う自動車利用の観光・集客に適している。 日光街道(国道 119 号)の並木道や大谷街道の石の里など, 歴史と文化を感じることのできる景観や街並みが保存されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 都市部に残された貴重な緑地において, 管理や調査活動に参加できる素地がある。 地域を取り囲む宇都宮環状線と中心部から放射状に延びる主要街道が結ぶ, 利便性の高い道路網が確立されている。 JR 宇都宮線, 日光線, 東武鉄道の主要駅があり, バス路線のネットワークとともに, 域内における多様で利便性の高い交通ネットワークが整備されている。 小区画ながら, 市街地内(峰, 越戸, 弥生, 城南)に市民農園が分布しており, 農作業の体験ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 大規模な平地林と, 自然の造形が作り出した鬼怒川沿いの地形や斜面林を体験・観察することができる。 鬼怒川中流域は, 海産の大型魚類(クジラ類)の化石発見地が多く, 世紀を遡って地域の自然環境を体験・実感する現場に恵まれている。 人の手による維持管理による育まれた平地林・里山林の動植物相を観察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 護岸改修の進んだ田川や姿川の堤防を利用した自転車道の整備などにより, 水面や農村地域の風景を伝えながら, 中央地域までアクセスすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 市内最大の市民農園(約 300 区画)があり, 周辺環境の豊かな水と緑と触れ合いながらの農業体験ができる。 関白の獅子舞, 羽黒山の梵天祭りなどの伝統文化が地域に息づいており, 自然を敬い活かす知恵を育んできた先人たちの歴史を学ぶことができる。
地域の課題	<ul style="list-style-type: none"> 移動手段はほぼ自動車交通に限定されるため, 公共交通手段の確保が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 自動車交通を中心とする都市機能が発達しているため, 道路網が充実している一方で交通渋滞や駐車場の不足や適正配置が難しく, 化石燃料に依存した地域構造となっている。 都市機能の充実によりエネルギーの消費が大きいとみられ, エネルギー利用効率の良い都市構造を確立する必要がある。 都市域における気温の平穏化を促す, 市外からの風の通り道を確保するための河川沿いのオープンスペースや, 水田環境の維持・確保など自然の循環・浄化システムを取り込んだ地域づくりを進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 商業地域へのアクセス道の建設が進められており, 自然環境の分断や狭小化が行っているため, 建設に伴う自然環境への影響評価と保全対策, 長期的な管理の方向性を並行して検討する必要がある。 大規模工場が林立しており, 周辺の住環境の確保が必要である。 個々の企業における環境法令の遵守だけでなく地域の環境保全のための協力が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道沿線や宇都宮環状道路沿いに人口集中地区が拡散しており, 都市機能が分散し, 住民のアクセス距離が長くなるため, 自動車利用を促進に依存している。 緑の賦存量が乏しく, かつ小規模であるため開発と並行した緑地の確保が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たに合併した地域性であり, バスなどの交通網が充実していないため, 観光・交流の移動手段が限定されている。